

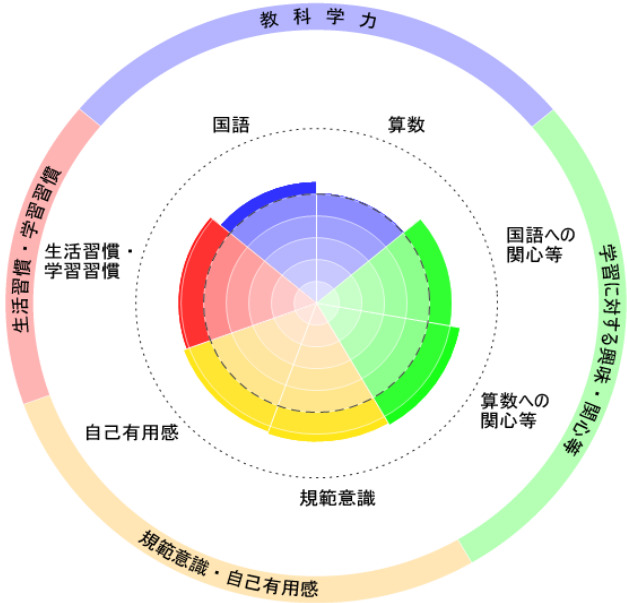
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○国語の学力は、5年12月に比べて全体的に上がっている。 ○話し手の意図や話に沿って質問することや、目的に応じて文章の内容を的確に押さえる力が高い。文脈を捉える力がついてきている。 ●同音異義語の漢字の使い分けにやや苦手さが見られる。 ●条件に合わせて文章を書く力を高めたい。	・どの場面での漢字を使うか考えたり、文脈に沿った漢字の選び方を学習させたい。また、他教科の学習用語を正しく漢字で書くように指導する。 ・読み取ったことや、読んで考えたことを書く活動は、随時行っているが、キーワードをリストアップしてから字数制限の中で書くなど、スキルを身につけさせる学習を積み重ねる。
算数	○絵や図から場面の様子を想起し、必要な数値を選んで答えを導き出す問題の正答率が高い。 ○基礎・基本の力がついている。 ●単位量あたりの意味理解や活要に課題がみられる。 ●数量関係を正しくとらえ、文章を読み取ったり、式の意味や解き方を言葉で表現したりする力に課題がみられる。	・日常生活の中で割合が使われている場面を意識的に取り上げ、身近な問題として捉えられるようにする。 ・数値や式を言葉で相手に分かるように説明したり、記述したりする学習を引き続き大切に丁寧な指導すると共に、日々の授業では文章の意味が理解できているかを確認し、読み取る力の向上を目指す。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○平日に家庭学習に1時間以上取り組んでいる児童の割合が、前年度と比較して20%から85%へと大幅に増えた。 ○地域の出来事に関心をもつ児童の割合も前年度と比較して、50%から85%へと増加した。 ●授業において、課題の解決に向けて自分で考えて取り組む児童の割合が58%と低い傾向が見られる。 ●発表の時に自分の考えがうまく伝わるように工夫している児童の割合も同じように低いことがわかる。	・本年度より取り組んでいる校内研究仮説①「児童の実態に合った学習ゴールを設定し、見通しを持ちながら取り組める学習過程を設定すれば、進んで読む児童が育つだろう。」②「学習用語を使えるように教えながら、読み取ったことや気付き、感想を交流する活動を繰り返せば、読みたいものを自力で読める児童が育つだろう。」の検証を授業を通して行っていく。

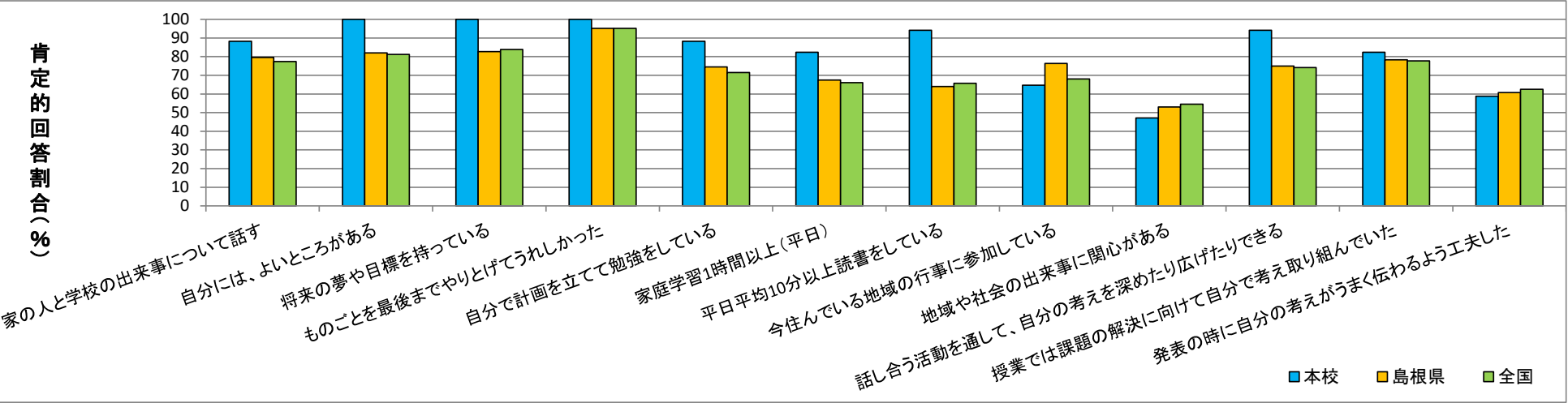
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・図書館活用学習の際に、情報カードを使って要約する活動を行う。 ・読んだことや、問題の解法についての自分の考えを説明する方法の基本を身につけさせ、自信を持って説明したり、さらに自分で工夫して説明できるように学習を重ねる。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	69	63	62	63.8
算数	66	66	65	66.6

受検者数 17 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。